

医療と介護の連携シートの活用について

四日市市介護保険サービス事業者連絡会（居宅介護支援部会）幹事

1. 目的

住み慣れた地域で安心して日常生活を送るには、関係機関の連携による一体的な支援が重要です。病気を持った人が元の生活者に戻るときに必要な情報の受け渡しを確実にするためのツールとして「医療と介護の連携シート」と「連携にあたってのエチケット」を作成しました。これまで連携に使用している「生活チェックシート」と、今般作成した「医療と介護の連携シート」をルールを守りながら活用することで、関係機関の連携がこれまで以上に円滑に行えることを目的とします。

2. 経緯

これまで四日市市・各機関において、来たる 2025 年問題に対応すべく地域包括ケアシステムの構築のために研修や組織作り、ルール作りなど多職種間の連携に取り組んでまいりました。

その中で、各機関においての認識の違いで連携がスムーズに行われていないケースもあり、得手不得手、経験年数に関わらずスムーズに連携を図ることができるツールのひとつとして作成しました。

3. 活用方法

1) シート①は医療機関が使用

退院支援対象者を新規に居宅介護支援事業者に支援依頼する時に使用。

2) シート②はケアマネジャーが使用

- ① 依頼をうけた居宅介護支援事業所の担当ケアマネジャーはシート②を持参し地域連携室のワーカーと面談して情報を受けとる。
- ② 担当ワーカーから該当患者、家族へ紹介してもらう。
- ③ 患者、家族等の意向を聞き取る
- ④ 担当ワーカーから担当医、病棟看護師に紹介してもらう。
- ⑤ 主治医と面談して、病状、治療方針等主治医の意向を確認する。
- ⑥ 記入後、地域連携室にて担当者の記名、確認印をもらった後コピーを取ってもらい、各一部ずつを控えとする。

※ 現に担当する利用者が入院した際は、入院先の地域連携室に生活チェックシートを持参し、情報提供するとともに、上記①④⑤の手順を踏む。（やむを得ず、FAX する場合は送付前後に確認の連絡をする）

3) シート③はケアマネジャーが訪問する時に持参し、居宅サービス計画の概要を作成するために必要な情報を得る。記入後、地域連携室にて担当者に記名、確認印をもらい、コピーを取ってもらい各一部ずつを控えとする。

※ 退院支援についてはケアマネジャー全員に配布されている退院時カンファレンスマニュアルを活用する。

※ 病院側は退院時を見越した看護サマリーをご準備ください。

4. その他

「ずっと在宅、時々病院」の実践には入退院支援の際に、利用者が医療と介護のつなぎめをシームレスかつスムーズに行き来できるよう、ひいては病院・ケアマネジャーともに円滑に入退院支援を行えるようにできればと考えます。

医療、介護連携にあたってのエチケット

ケアマネジャーは対象者の「日常」を医療機関は「非日常」を支えています。
連携は心配り（思いやり、歩み寄り、対話）から。

1、 お互いに思いやりを持ち、丁寧な対応を心がけましょう

☆職種により立場、制度、関連する法令、必要な情報が異なります。

お互いの専門性や立場を理解し、丁寧な対応を心がけ、気持ちよく仕事をしていきましょう。相手に失礼のない身だしなみも大切なエチケットです。

2、 時間はお互いに守りましょう。

☆ お互い、訪問をはじめ、「時間」は守りましょう。

どの職種も限られた時間の中で仕事をしています。時間に遅れることで、次の「あなた」との約束に間に合わなかったり、仕事に影響が出てしまう事があります。

3、 お互いに日常的な情報交換を忘れずに行いましょう。

☆顔の見える関係から、顔が見えなくても通じる関係になりましょう。電話では、一般的なマナーを守り、内容をあらかじめ簡潔にまとめ、連絡を取りましょう。

4、 担当者不在時の体制を整備しておきましょう。

☆緊急時も含め担当者不在時の連絡体制は事業所ごとに整理しておきましょう。

字代理の職員が決定したり、連絡がつく体制を整えたりしておきましょう。

5、 専門用語は使わず、分かり易い言葉を使いましょう。

☆医療職も介護職も、自分の業種以外の専門用語は分かりません。専門用語を使わず、分かり易く、はっきり、丁寧に説明しましょう。

（専門用語が使われた場合には「分からない」と伝える勇気を持ちましょう）

6、 医療機関への訪問の前にアポイントメントをとりましょう。

☆医療機関ではアポイントメントのない訪問には対応しにくい時があります。

事前に必ずアポイントメントをとりましょう。

また、当日の診療内容などでアポイントメントの時間に対応が困難になる際には医療機関はその旨を相手に伝え、可能であれば時間や日程の変更などを行いましょう。

退院支援は入院時（前）から始まっています。そして退院後の連携も大切です。「緊急時の信頼関係」は、普段のコミュニケーション、関係作りから築かれるものです。多職種が共同して、対象者が抱えるニーズに対し、に前向きに取り組むプロセスが重要です。